

海外の畜産物の需給動向

牛肉

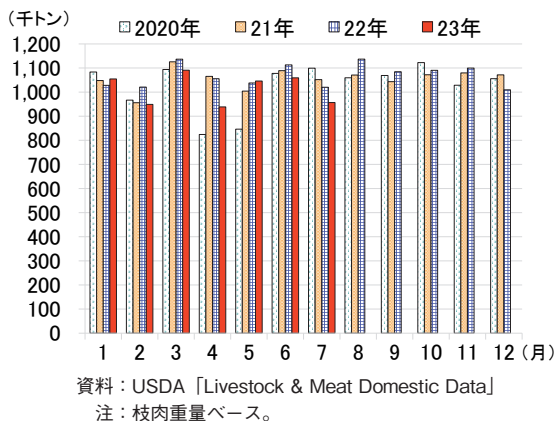
米 国

供給減から肥育牛価格は高水準を維持、上半期の牛肉輸出量は減少

23年7月の牛肉生産量、前年同月比6.2%減

2023年7月の牛と畜頭数は、255万5000頭（前年同月比6.4%減）とかなりの程度減少した。この結果、同月の牛肉生産量は95万7000トン（同6.2%減）とかなりの程度減少した（図1）。同年の牛肉生産量について米国農務省（USDA）は、牛群再構築に伴うと畜頭数減少などにより、1224万7000トン（前年比4.6%減）と見込んでいる。

図1 牛肉生産量の推移



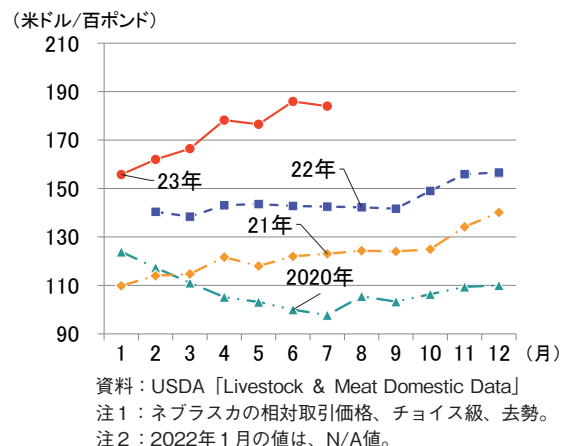
23年7月の肥育牛価格、前年同月比29.1%高

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年7月のフィードロット導入頭数は161万8000頭（前年同月

比8.3%減）とかなりの程度減少し、出荷頭数は172万7000頭（同5.3%減）とやや減少した。この結果、同年8月1日時点のフィードロット飼養頭数は1103万頭（同2.3%減）とわずかに減少した。中でも主要フィードロットを抱えるコロラド州は、導入頭数が同25.8%減と大幅に減少したことで、全米の導入頭数を押し下げた。現地情報によると、南部を除く放牧地での干ばつ状況が改善し、牧草の生育状況が良好であることが、今期の導入頭数減少の一因とされている。

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、23年7月の肥育牛価格は100ポンド当たり184.01米ドル（1キログラム当たり597.15円：1米ドル＝147.20円^注、同29.1%高）となり、肥育牛の供給不足などから高水準で推移している（図2）。

図2 肥育牛価格の推移



(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末TTS相場。

23年上半期の牛肉輸出量、前年同期比11.3%減

USDAによると、2023年6月の牛肉輸出量は12万2426トン（前年同月比14.3%減）とかなり大きく減少した（表）。この結果、23年上半期（1～6月）の牛肉輸出量は71万8331トン（前年同期比11.3%減）となり、牛肉生産量が減産傾向にある中でかなり大きく減少した。

輸出先別に見ると、上半期首位の韓国向けは16万5706トン（同12.2%減）、続く日本向けは15万4662トン（同16.3%減）、中国向けは12万1349トン（同14.6%減）と上位3カ国はいずれも前年同期を大きく下回った。一方、メキシコ向けは堅調な需要から6万7242トン（同12.4%増）とかなり大きく増加した。

23年の牛肉輸出量についてUSDAは、前年比9.3%減の145万8000トンと見込んでいる。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年 6月	23年 6月	前年同月比 (増減率)	シェア	23年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)	
韓国	31,322	25,971	▲17.1%	21.2%	165,706	▲12.2%
日本	34,009	24,821	▲27.0%	20.3%	154,662	▲16.3%
中国	26,976	21,721	▲19.5%	17.7%	121,349	▲14.6%
メキシコ	9,214	11,396	23.7%	9.3%	67,242	12.4%
カナダ	10,788	11,696	8.4%	9.6%	60,864	▲1.2%
台湾	8,049	10,219	27.0%	8.3%	47,316	▲9.4%
香港	3,411	3,846	12.8%	3.1%	19,246	27.6%
その他	19,101	12,756	▲33.2%	10.4%	81,946	▲22.2%
合計	142,868	122,426	▲14.3%	100.0%	718,331	▲11.3%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

豪州

と畜頭数および牛肉生産量が約3年ぶりの高水準

肉牛価格は約3年半ぶりに500豪セント割れ

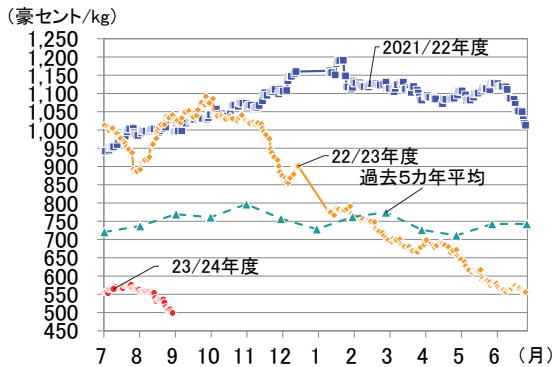
豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地

区若齢牛指標（EYCI）価格（2023年8月29日時点）は、1キログラム当たり499豪セント（483円：1豪ドル＝96.78円^(注1)）となり、牛群再構築の完了に伴う牛の供給増を背景に3年半ぶりの同500豪セント割れ

となった（図1）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

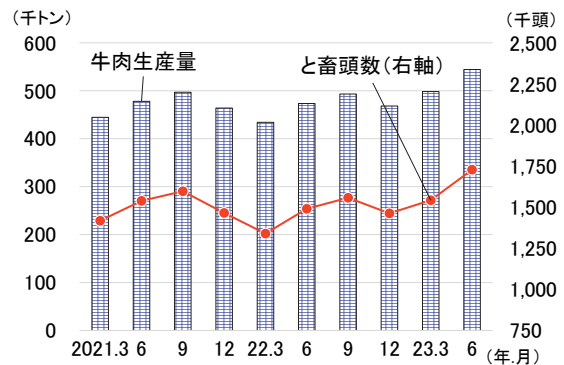
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

雌牛と畜頭数、基準値超えで牛群縮小の可能性も

豪州統計局（ABS）が2023年8月に公表した統計によると、23年4～6月期の牛と畜頭数は173万頭（前期比12.0%増）とかなり大きく、牛肉生産量は54万4300トン（同9.2%増）とかなりの程度増加し、いずれも20年7～9月期以来となる170万頭、50万トンを超えた（図2）。また、同期の雌牛のと畜頭数割合（FSR）は、牛群再構築と牛群整理との判断基準の一つとなる47%^{（注2）}を超える48.0%となり、今後予想される乾燥気候で牧草の確保が困難となった場合、牛群が縮小局面に入る可能性が示唆されている（図3）。

（注2）同値が47%を超えた場合には牛群が縮小に向かうとされ、47%以下の場合には牛群が再構築段階に入るとされている。

図2 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



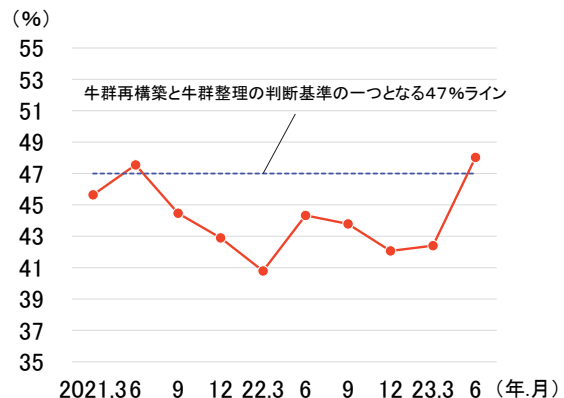
資料：ABS

注1：四半期ごとの数値。

注2：生産量は枝肉重量ベース。

注3：と畜頭数は子牛を除く。

図3 FSRの推移



資料：ABS

注：四半期ごとの数値。

豪州フィードロット協会（ALFA）とMLAが四半期ごとに共同で実施している全国フィードロット飼養動向調査によると、23年4～6月期末のフィードロット飼養頭数は、125万6832頭と過去2番目の高水準を記録し、フィードロットの稼働率も過去5年平均となる8割を超えている。穀物価格は高水準で推移しているものの、肉牛価格の軟化や輸出需要を追い風にフィードロットの飼養規模の拡大が見受けられる^{（注3）}。

（注3）海外情報「2023年6月末のフィードロット飼養頭数、過去2番目の高水準（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003590.html）を参照されたい。

牛肉輸出量、米国向けが今後も高水準で推移する見込み

豪州農林水産省（DAFF）によると、2023年7月の牛肉輸出量は9万7305トン（前年同月比29.8%増）と大幅に増加した（表）。現地報道によると、生産量が増加する中で国内の需給が緩むとともに、海上運賃も低下したことなどが、輸出量の増加につながっているとしている。

同月の輸出量を輸出先別に見ると、米国向

けが2万3909トン（同103.4%増）と倍増した。現地報道によると、米国内の牛群再構築により同国の牛肉生産量の減少は、今後2～3年の間継続するとされており、米国向け牛肉輸出量は引き続き高水準で推移するとみている。また、日本向けは1万7732トン（同4.4%減）とやや減少したが、米国、韓国、中国や東南アジアなどへの輸出が大きく伸びる中で、23年1～7月の累計では12万225トン（前年同期比5.4%減）といまだ最大の輸出先となっている。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年 7月	23年 7月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～7月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
米国	11,756	23,909	103.4%	112,949	60.2%
日本	18,551	17,732	▲ 4.4%	120,225	▲ 5.4%
韓国	15,012	16,960	13.0%	104,080	21.0%
中国	12,533	16,807	34.1%	115,746	35.2%
東南アジア	9,092	11,057	21.6%	63,201	25.2%
中東	2,224	2,154	▲ 3.2%	14,769	▲ 3.7%
EU	880	756	▲ 14.1%	4,583	▲ 2.1%
その他	4,901	7,931	61.8%	40,132	18.9%
輸出量合計	74,949	97,305	29.8%	575,684	21.6%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ）の合計。

（調査情報部 国際調査グループ）

ブラジル

2023年の肥育牛価格は22年に続き下落傾向で推移

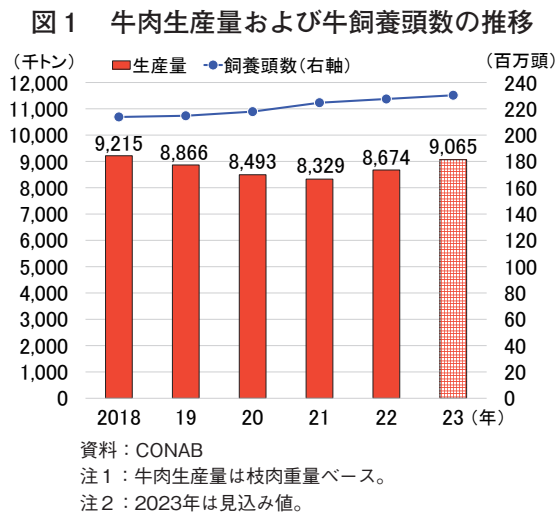
23年の牛肉生産量は2年連続で増加の見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）の予測（2023年7月28日公表）によると、

23年のブラジルの牛肉生産量は906万5000トン（前年比4.5%増）と前年をやや上回り、2年連続の増加が見込まれている（図1）。これは、生体牛価格の低下から肉用牛生産者が繁殖用雌牛を出荷する傾向が強ま

ることなどから、と畜頭数の増加が見込まれるためである。また、同年の牛飼養頭数は2億3028万頭（同1.2%増）と前年をわずかに上回り、5年連続の増加が見込まれている。

近年の牛肉生産量を見ると、19～21年はと畜対象となる個体が少なく前年割れで推移したが、22年は牛飼養頭数の増加からと畜頭数が回復したことに加え、牛肉価格が高水準で推移したことで、同4.1%増と増加に転じていた。



23年1～7月の牛肉輸出量、中国向け輸出停止の影響で前年同期を下回る

ブラジル経済省貿易事務局（SECEX）によると、2023年1～7月の牛肉輸出量は、104万3082トン（前年同期比4.7%減）と前年同期をやや下回った（表）。これは、同年2月に北部パラ州で非定型BSE（牛海綿状脳症）に感染した個体1頭が確認されたことで、2月23日～3月22日の間、中国向け輸出が停止したことが影響し、23年2～4月の牛肉輸出量が前年同期を2～3割程度下回ったことによる。また、世界経済が不透明な中、国際価格の見直しや牛肉の国内生産増などの影響により、輸出単価は1トン当たり4897米ドル（72万838円：1米ドル＝147.20円^(注)、同20.0%安）と大幅に低下した。

輸出先別に見ると、輸出量全体の6割弱を占める中国向けは60万4732トン（同6.9%減）と前年同期をかなりの程度下回ったものの、輸出停止解除後は回復傾向にある。これに次ぐチリ向けは、5月以降輸出量が増加し5万6594トン（同36.4%増）と前年同期を大幅に上回った。

表 牛肉輸出の推移

区分	2022年（1～7月）			23年（1～7月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	649,546	4,449,875	6,851	604,732	3,047,326	5,039	▲6.9%	▲31.5%	▲26.4%
チリ	41,500	212,876	5,130	56,594	278,559	4,922	36.4%	30.9%	▲4.0%
米国	56,734	292,520	5,156	52,963	239,185	4,516	▲6.6%	▲18.2%	▲12.4%
エジプト	71,343	285,060	3,996	36,770	145,527	3,958	▲48.5%	▲48.9%	▲0.9%
アラブ首長国連邦	29,901	138,728	4,640	32,784	149,387	4,557	9.6%	7.7%	▲1.8%
フィリピン	32,939	145,865	4,428	28,266	109,665	3,880	▲14.2%	▲24.8%	▲12.4%
ロシア	14,183	56,712	3,999	27,588	105,231	3,814	94.5%	85.6%	▲4.6%
サウジアラビア	22,727	122,848	5,405	27,550	126,207	4,581	21.2%	2.7%	▲15.3%
その他	176,124	1,000,432	5,680	175,835	907,355	5,160	▲0.2%	▲9.3%	▲9.2%
合計	1,094,997	6,704,916	6,123	1,043,082	5,108,442	4,897	▲4.7%	▲23.8%	▲20.0%

資料：SECEX
注：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

23年8月の肥育牛価格は20年5月 以来の水準に下落

サンパウロ大学農学部応用経済研究所 (CEPEA) によると、2023年の肥育牛価格は前年に続き下落傾向で推移し、8月24日時点で1キログラム当たり13.32リアル (398円：1リアル=29.91円^(注)、前年同期比35.1%安) と20年5月以来の低水準となった (図2)。これは、と畜頭数の増加により牛肉の供給量が増加したことなどが要因である。

22年の肥育牛価格は、(1) 海外からの堅調な需要 (2) 飼料や肥料などの生産コストの上昇 (3) インフレの進行などを背景に上昇し、同年3月24日には同23.47リアル (702円) の最高値を記録したが、その後は

牛と畜頭数の増加や牛肉の国内需要の低迷などを背景に下落傾向で推移している。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」2023年8月末TTS相場。

図2 肥育牛価格の推移



(調査情報部 井田 俊二)

豚 肉

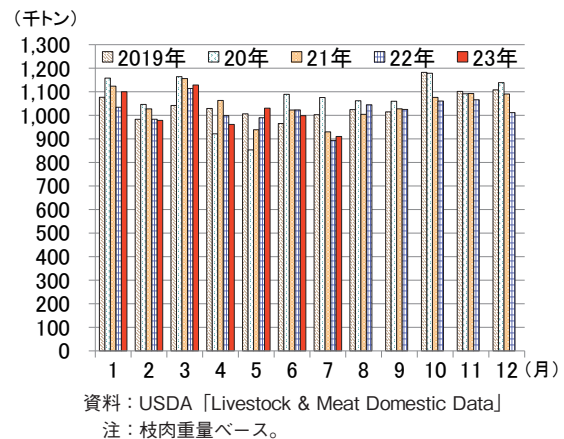
米 国

需要の増加から豚肉卸売価格は上昇、期末在庫も減少

23年7月の豚肉期末在庫、前年同月 をかなりの程度下回る

米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS) によると、2023年7月の豚肉生産量は、1頭当たり枝肉重量が夏の高気温や飼料費高騰の影響で前年同月を下回ったものの、と畜頭数の増加により91万トン (前年同月比1.8%増) とわずかに増加した (図1)。また、同月の豚肉期末在庫は21万4900トン (同10.0%減) とかなりの程度減少した (図2)。現地情報によると、旺盛な外食、

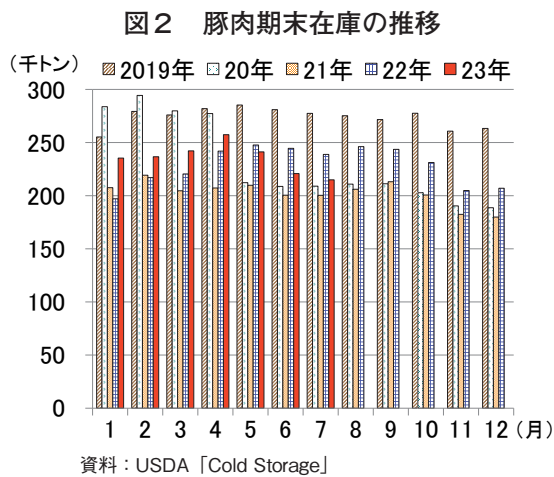
図1 豚肉生産量の推移



バーベキュー向け需要に加え、同年7月からカリフォルニア州法第12号^(注1)が適用され、

同州において飼養基準を満たさない母豚に由来する豚肉の販売が規制される中、7月1日時点ですでにと畜・食肉処理されていた豚肉は年末まで同州にて販売が可能のため出荷増となり、米国全体で在庫量が減少した可能性があるとしている。

(注1) 海外情報「母豚の飼養基準と販売を規制する州法の動向(その1:カリフォルニア州)(米国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003572.html)を参照されたい。なお、飼養基準を満たさない母豚に由来する豚肉であっても、2023年7月1日時点ですでにと畜・食肉処理されている豚肉は、同年12月31日まで販売を継続可能とする猶予期間が設けられている。

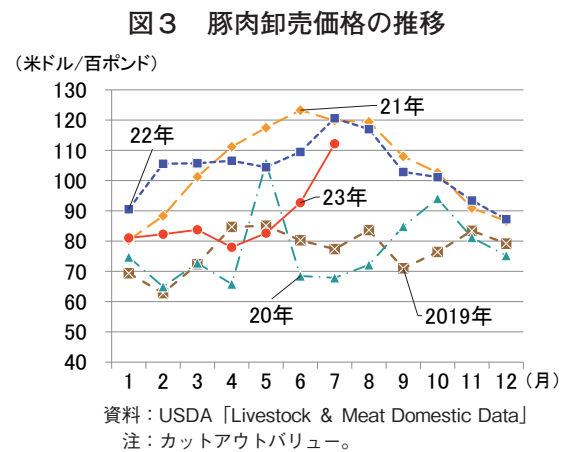


23年7月の豚肉卸売価格、需要の増加から今年最高値を更新

USDAによると、2023年7月の豚肉卸売価格は100ポンド当たり112.17米ドル（1キログラム当たり364.01円：1米ドル＝147.20円^(注2)、前年同月比7.0%安）と前年同月をかなりの程度下回ったものの、5月以降上昇基調にある価格は、7月に前月比21.0%高と大幅に上昇し、今年最高値を記録した（図3）。7月の休暇シーズンに入り、外食、バーベキュー向け需要の増加が価格上

昇の要因とみられている。また、同月の肥育豚価格は100ポンド当たり73.92米ドル（同239.89円、前年同月比12.0%安）と前年同月をかなり大きく下回ったものの、卸売価格と同じく前月比17.2%高と大幅に上昇した。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末TTS相場。



23年6月の豚肉輸出量、前年同月をかなりの程度上回る

USDAによると、2023年6月の豚肉輸出量は26万4900トン（前年同月比9.5%増）とかなりの程度増加し、23年1～6月の累計では156万5200トン（前年同期比9.6%増）とかなりの程度増加した（表）。1～6月の輸出量を輸出先別に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けは同国内の堅調な需要から同7.9%増とかなりの程度増加した。また、競合するEU産豚肉価格が高騰したことで、これまでEU産豚肉が優勢となっていた日本、韓国、豪州、フィリピン向けも前年同期を上回った。

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2022年 6月	23年 6月	前年同月比 (増減率)	シェア	23年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	80.5	89.4	11.0%	33.7%	565.8	7.9%
日本	44.7	46.6	4.2%	17.6%	263.6	0.7%
中国・香港	23.7	24.6	3.6%	9.3%	144.2	15.1%
韓国	22.7	20.5	▲9.6%	7.7%	143.2	11.5%
カナダ	17.6	19.5	10.9%	7.4%	119.4	8.1%
コロンビア	14.6	11.5	▲21.3%	4.3%	53.7	▲19.8%
豪州	5.6	10.3	84.5%	3.9%	44.3	61.8%
フィリピン	5.1	7.8	51.7%	2.9%	23.3	36.1%
その他	27.2	34.6	27.3%	13.1%	207.8	24.7%
合計	241.8	264.9	9.5%	100.0%	1,565.2	9.6%

資料：USDA 「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

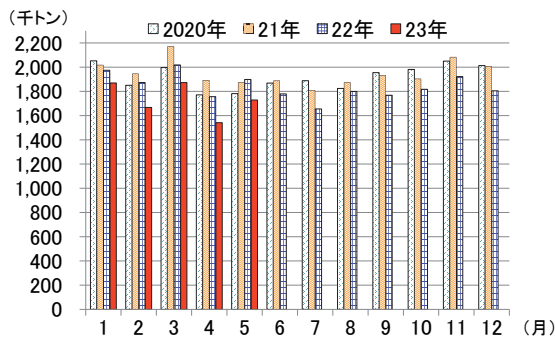
E U

豚肉生産量が減少するも、8月に入り枝肉価格は下落基調

23年5月の豚肉生産量、減少基調にある中、前年同月比8.9%減

欧州委員会によると、2023年5月の豚肉生産量(EU27カ国)は、172万9000トン(前年同月比8.9%減)とかなりの程度減少し、12カ月連続で前年同月を下回った(図1)。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

同月の1頭当たり枝肉重量は94.5キログラム(同0.5%増)と前年同月をわずかに上回ったが、と畜頭数が1829万頭(同9.4%減)とかなりの程度減少したことが影響した。

同月の豚肉生産量を国別に見ると、ポーランドを除く主要生産国で前年同月を下回った(表1)。中でも、デンマークの豚肉生産量は、生産コストの増加による養豚農家の廃業や近隣国への生体輸出などで肉豚供給頭数が減少していることにより(注1)、同25.9%減の10万7000トンと大幅に減少した。一方、生産量1位のスペインのと畜頭数は同4.7%減の459万頭となったが、豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)の影響(注2)があった同年1～4月(同7.5～11.6%減)と比較すると減少率は縮小しており、子豚の輸入拡大による生産回復の兆しが表れている。

(注1) 海外情報「デンニッシュ・クラウン社、経営合理化計画を公表 (EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003593.html) を参照されたい。

(注2) 海外情報「スペイン、豚繁殖・呼吸障害症候群の発生により子豚の輸入を拡大 (EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003577.html) を参照されたい。

表1 主要生産国別豚肉生産量の推移

(単位：千トン)

	2022年 5月	23年 5月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～5月)	
				前年同期比 (増減率)	
スペイン	432	426	▲ 1.4%	2,096	▲ 6.6%
ドイツ	383	331	▲ 13.6%	1,716	▲ 9.6%
フランス	180	172	▲ 4.6%	862	▲ 5.5%
ポーランド	148	149	0.4%	724	▲ 6.0%
オランダ	142	118	▲ 17.2%	619	▲ 13.2%
デンマーク	144	107	▲ 25.9%	567	▲ 20.9%
イタリア	119	106	▲ 11.0%	519	▲ 6.2%
その他	350	321	▲ 8.2%	1,576	▲ 7.9%
合計	1,899	1,729	▲ 8.9%	8,680	▲ 8.8%

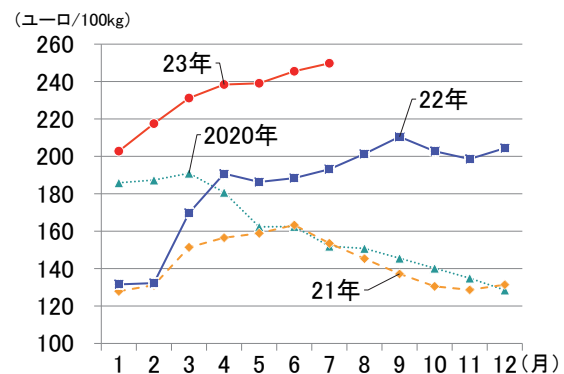
資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

23年8月の枝肉価格は下落も、依然として前年同月比大幅高

欧州委員会によると、2023年7月の豚枝肉卸売価格 (EU27カ国) は、前年同月比29.3%高の100キログラム当たり249.66ユーロ (4万280円: 1ユーロ= 161.34円^(注3)) となり、供給量の減少を背景に22年12月から上昇が続いている (図2)。しかしながら、週別価格で見ると7月中旬以降は、直近8月28日の週まで連続して前週を下回って推移しており、同週の週別価格は、前月最終週比6.1%安の同231.14ユーロ (3万7292円) となった。英国農業園芸開発公社 (AHDB) によると、EU加盟国のと畜頭数は依然として少なく供給は十分でないとしつつも、夏の天候不順によるバーベキュー需要などの低下が価格下落の一因としている。

(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末TTS相場。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU (CLASS E) 平均価格。

23年6月の豚肉輸出量、前年同月を大幅に下回る

欧州委員会によると、2023年6月のEU域外への豚肉輸出量 (EU27カ国) は、16万4195トン (前年同月比30.3%減) と大幅に減少し、23年上半期 (1～6月) の輸出量は111万1018トン (前年同期比22.8%

減)となった(表2)。上半期の輸出量を輸出先別に見ると、輸出量1位の中国向けは同11.8%減の32万1592トン、2位の日本向けは同15.4%減の17万507トンとなった。一方で3位の英国向けは同11.8%増の16万9337トンとかなり大きく増加した。

AHDBによると、豚肉輸出量の減少は豚

肉生産量の減少による供給減の影響が大きく、また、豚肉価格が上昇し、国際市場での価格優位性が低下していることに加え、インフレにより生活消費財全般の価格上昇から消費者が鶏肉など手頃な価格の選択肢を求めているためとされている。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移 (EU域外向け)

(単位: トン)

	2022年 6月	23年 6月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	23年 (1~6月)	
					前年同期比 (増減率)	
中国	57,856	42,465	▲ 26.6%	25.9%	321,592	▲ 11.8%
日本	33,608	21,127	▲ 37.1%	12.9%	170,507	▲ 15.4%
英国	24,426	30,908	26.5%	18.8%	169,337	11.8%
韓国	23,397	14,723	▲ 37.1%	9.0%	99,631	▲ 32.3%
フィリピン	22,658	9,861	▲ 56.5%	6.0%	55,085	▲ 53.5%
豪州	10,637	5,216	▲ 51.0%	3.2%	36,482	▲ 45.1%
その他	62,865	39,895	▲ 36.5%	24.3%	258,384	▲ 33.7%
合計	235,447	164,195	▲ 30.3%	100.0%	1,111,018	▲ 22.8%

資料: [Global Trade Atlas]

注1: 製品重量ベース。

注2: HSコードは0203。

(調査情報部 渡辺 淳一)

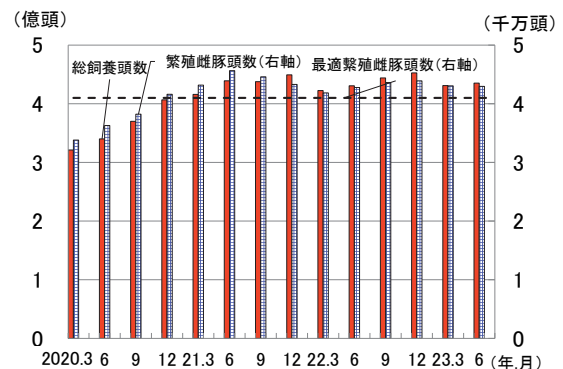
中国

総飼養頭数は増加に転じる中で、豚肉価格は引き続き低水準

23年6月末の繁殖雌豚頭数、総飼養頭数はいずれも微増

中国農業農村部によると、2023年6月末時点の繁殖雌豚頭数は4296万頭(前年同月比0.5%増)と前年同月をわずかに上回っており、同部が最適な水準としている4100万頭程度を4.8%上回っている状況にある(図1)。また、総飼養頭数は4億3517万頭(同1.1%増)と前年同月をわずかに上回り、前四半期末(23年3月)を1%上回った。

図1 豚飼養頭数の推移



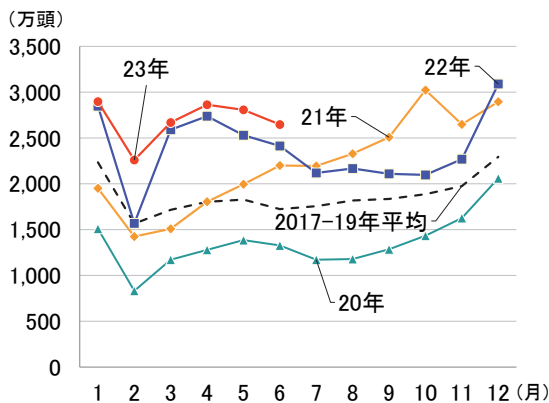
資料: 中国国家统计局

注: 四半期ごとの公表値。

23年6月の豚と畜頭数、引き続き前年を上回る

2023年6月の豚と畜頭数は、2647万頭（前年同月比9.7%増）となり、前月を5.7%下回ったものの、前年同月をかなりの程度上回った（図2）。これにより、同年第2四半期（4～6月）の豚肉生産量は1442万トンと前年同期を4.6%上回った。中国国家统计局によると、23年上半期（1～6月）の経済状況は回復しているとされているものの、現地関係者からは、労働節（メーデー）の連休（4月29日～5月3日）需要後の学校などの夏休みに伴う団体消費の減少、気温の上昇に伴う豚肉需要の低下、民間食肉在庫量の増加などにより、5月以降のと畜頭数は減少傾向にあるとしている。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

23年7月の豚肉価格、引き続き低水準で推移

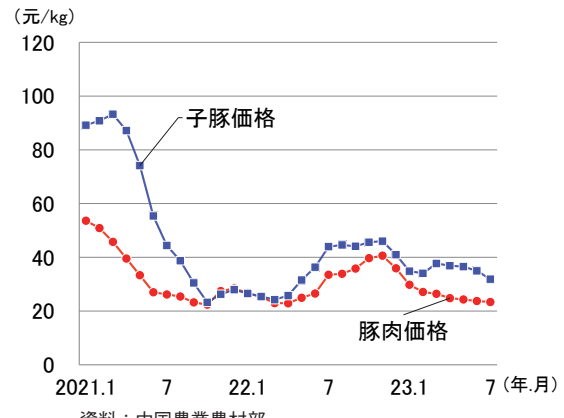
豚肉価格は2022年11月から下落が続いており、23年7月は前月比1.6%安の1キログラム当たり23.4元（476円：1元＝20.33円^注）となった（図3）。豚肉価格の下落を受けて国家発展改革委員会などは7月

14日、前回2月24日以来となる国家備蓄による豚肉の買い入れ（2万トン）を実施した。今後の豚肉価格の見通しについて中国農業農村部は、学校の新学期の開始、中秋節および国慶節に関する連休需要（9月29日～10月6日）、気温の低下に伴う需要期の到来などにより、回復が期待されるとしている。

子豚価格も豚肉と同様に下落傾向にあり、同年7月は同8.8%安の同31.9元（649円）となった。現地関係者によると、豚肉価格の低迷が続く中で、気温の上昇に伴い子豚の生育環境が厳しくなっていることから、肥育業者のもと豚導入意欲が低下していることを要因に挙げている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末TTS相場。

図3 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

23年1～7月の豚肉輸入量、引き続き前年同期を上回る

2023年1～7月の豚肉輸入量は、105万3849トン（前年同期比14.5%増）と前年同期をかなり大きく上回った（表）。この背景として（1）22年末の国内の豚肉価格高（2）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関連した規制の緩和（3）労働節の

連休需要一などにより、23年1～7月の総輸入量は伸びているとされる。ただし、5月

以降の需給緩和を反映し、6、7月の単月輸入量は前月比で減少に転じている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年	
					(1～7月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	38.2	93.4	109.8	46.9	26.5	1.5%
ブラジル	22.2	48.1	54.6	41.7	25.5	28.0%
カナダ	17.2	41.1	23.6	11.4	9.3	53.4%
デンマーク	16.4	36.0	35.2	19.4	9.0	1.2%
米国	24.5	69.6	39.8	12.6	8.8	25.5%
オランダ	16.0	26.5	27.7	12.3	8.8	46.5%
その他	64.9	115.8	66.8	30.1	17.5	▲ 3.1%
合計	199.4	430.4	357.4	174.4	105.4	14.5%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

(調査情報部 海老沼 一出)

鶏肉

米国

23年7月の鶏肉卸売価格は前年同月比で大幅安

23年1～7月の鶏肉生産量はわずかに増加

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年7月の鶏肉生産量は、1羽当たり生体重量の増加から168万2000トン

（前年同月比0.6%増）となり、同年1～7月の累計では1215万7000トン（前年同期比2.6%増）とわずかに増加している（表1）。USDAは、5、6月における肉用鶏卵の孵化数が前年同月比で減少しているとして、23年の鶏肉生産量予測を前月発表から5万6000

表1 鶏肉生産量の推移

	2022年		23年		23年	
	(1～12月)	前年比 (増減率)	7月	前年同月比 (増減率)	(1～7月)	前年同期比 (増減率)
生産量（千トン）	20,959	2.9%	1,682	0.6%	12,157	2.6%
処理羽数（百万羽）	9,431	2.4%	759	0.1%	5,456	1.4%
生体重量（キログラム/羽）	2.94	0.4%	2.93	0.5%	2.95	1.1%

資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注1：連邦食肉検査済みのもの。
注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

トン引き下げ、前年比1.7%増と見込んでいる。

23年7月の卸売価格は前年同月を大幅に下回る

USDA/ERSによると、2023年7月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.18米ドル（1キログラム当たり384.49円：1米ドル＝147.20円^(注)、前年同月比22.7%安）となり、23年1月以降、高騰した前年を下回っているものの、19～21年を上回る水準で推移している（図）。また、23年7月の鶏肉期末在庫量を見ると、生産量の増加から36万8450トン（同4.8%増）と前年同月をやや

上回った。これらの状況を踏まえてUSDAは、23年下期（7～12月）の価格見通しを先月の1ポンド当たり1.25米ドル（同405.65円）から同1.13米ドル（同365.09円）に下方修正している。

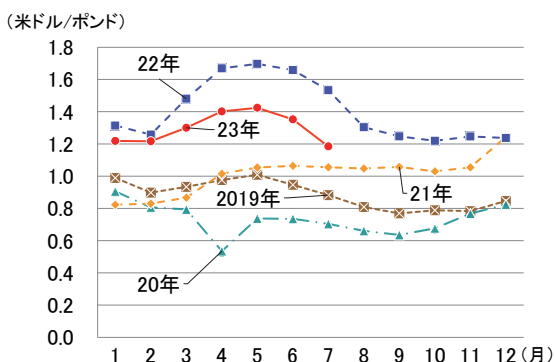
（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末のTTS相場。

23年6月の鶏肉輸出量はわずかに減少

USDA/ERSによると、2023年6月の鶏肉輸出量は26万6573トン（前年同月比2.0%減）と前年同月をわずかに下回った（表2）。主要輸出先のメキシコ、キューバ、カナダ向けなどが大幅に増加したものの、フィリピン、アンゴラ向けなどの減少が影響した。一方、23年1～6月の鶏肉輸出量は、メキシコや台湾向けが堅調に推移する中、前年同期比1.1%増となった。

また、同期の鶏肉輸入量は、最大の輸入先であるチリで発生した高病原性鳥インフルエンザにより4～5月にかけて同国からの輸入が制限されたため、2万7167トン（前年同期比31.7%減）と大幅に減少した（表3）。

図 鶏肉卸売価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年 6月	23年 6月	前年同月比 (増減率)	シェア	23年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	54,505	62,825	15.3%	23.6%	357,964	13.1%
キューバ	23,150	27,413	18.4%	10.3%	137,688	▲1.9%
台湾	27,018	26,555	▲1.7%	10.0%	161,945	16.4%
フィリピン	17,306	14,747	▲14.8%	5.5%	71,380	▲18.3%
カナダ	12,513	14,395	15.0%	5.4%	71,817	▲6.4%
中国	8,630	11,942	38.4%	4.5%	84,041	6.4%
グアテマラ	9,148	9,404	2.8%	3.5%	66,751	2.1%
ジョージア	6,073	8,797	44.8%	3.3%	36,409	31.8%
アンゴラ	11,143	6,526	▲41.4%	2.4%	49,188	▲14.5%
その他	102,645	83,970	▲18.2%	31.5%	630,765	▲4.4%
合計	272,131	266,573	▲2.0%	100.0%	1,667,949	1.1%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

表3 輸入先別鶏肉輸入量の推移

(単位：トン)

	2022年 6月	23年 6月	前年同月比 (増減率)	シェア	23年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)	
チリ	6,156	3,798	▲38.3%	69.5%	17,832	▲41.9%
カナダ	1,501	1,659	10.6%	30.3%	9,230	4.9%
メキシコ	18	11	▲38.0%	0.2%	105	▲63.8%
合計	7,675	5,469	▲28.7%	100.0%	27,167	▲31.7%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

(調査情報部 小林 大祐)

ブラジル

鶏肉輸出量、23年は前年同期をかなりの程度上回って推移

23年1～7月の鶏肉輸出量、中国向けは大幅に回復

ブラジル経済省貿易事務局（SECEX）によると、2023年1～7月の鶏肉輸出量は282万719トン（前年同期比9.8%増）と前年同期をかなりの程度上回った(表)。これは、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生

や生産コスト上昇などの影響で主要鶏肉生産国からの供給が減少し、ブラジル産鶏肉への需要が高まったためとみられる。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは44万1496トン（同33.4%増）と前年の落ち込みから大幅に回復した。同国では22年12月末、COVID-19対策として実施していた移動制限や、輸入食品に対する検査、消毒義務

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額の推移

区分	2022年（1～7月）			23年（1～7月）			前年比（増減率）		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	330,893	755,701	2,284	441,496	1,073,380	2,431	33.4%	42.0%	6.5%
日本	231,735	516,376	2,228	254,968	596,656	2,340	10.0%	15.5%	5.0%
アラブ首長国連邦	281,083	596,696	2,123	245,321	506,159	2,063	▲12.7%	▲15.2%	▲2.8%
南アフリカ共和国	177,378	122,950	693	215,021	130,892	609	21.2%	6.5%	▲12.2%
サウジアラビア	200,386	500,587	2,498	209,418	489,292	2,336	4.5%	▲2.3%	▲6.5%
フィリピン	137,929	156,927	1,138	142,029	128,771	907	3.0%	▲17.9%	▲20.3%
韓国	101,033	216,108	2,139	114,397	245,715	2,148	13.2%	13.7%	0.4%
メキシコ	95,258	229,219	2,406	99,255	205,842	2,074	4.2%	▲10.2%	▲13.8%
その他	1,013,018	1,919,590	1,895	1,098,814	2,031,296	1,849	8.5%	5.8%	▲2.4%
合計	2,568,713	5,014,153	1,952	2,820,719	5,408,005	1,917	9.8%	7.9%	▲1.8%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：製品重量ベース。

などの措置が解除されたことで、鶏肉需要の回復につながったためである。中国に次ぐ日本向けは25万4968トン（同10.0%増）と前年同期をかなりの程度上回った。このほか、インフレ対策として23年12月まで輸入関税の無税措置を講じているメキシコ向けは9万9255トン（同4.2%増）とやや増加した。

23年の鶏肉卸売価格、需給の緩和から下落傾向で推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、直近（2023年8月24日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格は、1キログラム当たり6.32リアル（189円：1リアル＝29.91円^{（注）}）となった（図）。同価格は22年11月ごろまで同8リアル台を維持していたが、その後、鶏肉供給量の増加に加え、牛肉や豚肉との価格差縮小による鶏肉

図 サンパウロ州の鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の推移



資料：CEPEA
注：名目価格。

の価格競争力低下により需要が弱まり、23年7月上旬には同5.66リアル（169円）と3割程度下落していた。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

ブラジルの家きん、HPAIに感染

2023年5月10日、南東部エスピリトサント（ES）州で初めて野生の海鳥2羽からHPAIの感染が確認された。その後8月30日までに計86羽の感染が確認されている。このうち、ES州では6月に、南部サンタカタリーナ（SC）州では7月に、それぞれ自家消費用に飼っていた家きん1羽で感染が確認された。

この2件の感染確認を受けて日本は、ES州からの家きん肉などの輸入を6月28日から、SC州からの輸入を7月17日からそれぞれ停止する措置を講じた。その後、HPAIの清浄性が確認されたことから、ES州については8月10日、SC州については8月18日にそれぞれ輸入停止措置が解除された。

ブラジルでは5月22日、全国を対象に動物衛生緊急事態宣言（180日間有効）が発出されており、連邦政府は、同国行政機関や民間組織と連携し疾病のまん延防止のための緊急行動を実施している。

（調査情報部 井田 俊二）

23年の生産量は増加、原種鶏更新量も回復傾向

23年上半期の家きん肉生産量は前年同期比増

中国国家统计局によると、2023年上半期（1～6月）の家きん総出荷羽数は71億9000万羽（前年同期比4.1%増）、生産量は1113万トン（同4.3%増）となり、おおむね安定的な生産が継続している。また、同年6月末の家きん飼養羽数は63億2000万羽（前年同月比3.5%増）となった。現地関係者によると、同飼養羽数を左右する白羽肉鶏原種鶏の23年1～5月の輸入および更新量は、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響を受けた前年を上回る水準で推移したとされている。

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の直近見通しによると、23年の中国の鶏肉生産量^{（注1）}は前年並みの1430万トンとされている（表1）。また、22年以降の世界的なHPAIの流行により中国が原種鶏の輸入を規制したため、22年末から23年初の数カ月にかけて原種鶏の在庫が減少しており、24年の鶏肉生産に影響が出る可能性があることも予測されている。

（注1）同国では、家きん肉生産量のうち約6割が鶏肉であるとされている。鶏肉の生産割合については『畜産の情報』2020年5月号「中国の肉用鶏産業の現状と鶏肉需給の見通し」2 肉用鶏産業の概要（1）家きん産業における肉用鶏産業の位置付け（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001123.html#title3）を参照されたい。

表1 鶏肉需給の推移

（単位：万トン）

	2020年	21年	22年	23年 （予測）
生産量	1,460	1,470	1,430	1,430
輸入量	100	79	63	75
輸出量	39	46	53	53
国内消費量	1,521	1,503	1,440	1,452

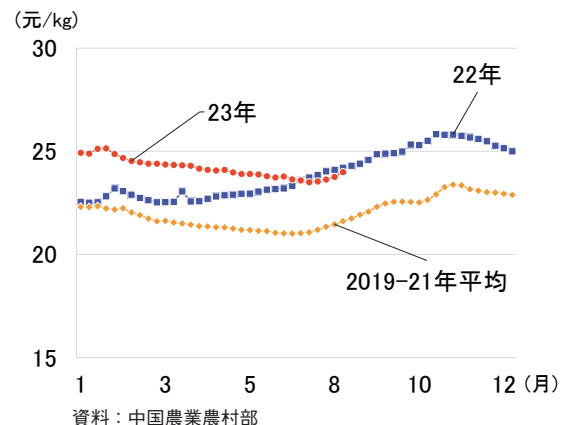
資料：USDA/FAS

注：もみじ（鶏足）は含まない。

23年の鶏肉価格は下落傾向から持ち直す

中国農業農村部によると、2023年8月第2週の鶏肉市場価格は、1キログラム当たり24元（488円：1元＝20.33円^{（注2）}、前年同期比0.9%安）と前年同期をわずかに下回った（図）。23年上半期は豚肉価格下落の影響や、飼料価格の下落による生産コストの減少などから鶏肉価格は下落傾向となったが、

図 鶏肉市場価格の推移



例年同様に冬場の需要期に向けて7月を境に反転し、7～8月は前年と同程度の価格となっている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末TTS相場。

23年1～7月の鶏肉輸入量は前年同期比で増加

2023年1～7月の冷凍鶏肉輸入量は、81万7459トン（前年同期比4.9%増）とや

や増加した（表2）。現地関係者およびUSDA/FASによると、世界各地でのCOVID-19の再拡大や鶏肉生産地域でのHPAI流行などにより輸入量の少なかった22年に比べ、23年は引き続きHPAIの影響は残るものの、外食産業などの需要が輸入をけん引したとされている。主要輸入先の中でタイ産はHPAIの影響を受けておらず、また、22年からタイの輸出認定工場の規制解除および認定が進んでいることもあり、大幅に輸入量を伸ばしている。

表2 輸入先別鶏肉輸入量の推移（冷凍）

（単位：万トン）

	2019年	20年	21年	22年	23年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	53.7	68.6	65.1	55.3	42.0	19.9%
米国	—	40.9	44.0	34.3	15.7	▲29.8%
ロシア	3.4	14.5	11.9	12.7	7.7	6.1%
タイ	7.1	11.7	10.4	8.5	6.6	73.1%
ベラルーシ	0.9	3.2	2.7	5.3	4.9	94.4%
その他	5.4	7.1	6.9	11.6	4.9	▲29.6%
合計	77.4	151.4	145.7	129.2	81.7	4.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは020714。

23年1～7月の鶏肉調製品輸出量は前年同期比で減少

2023年1～7月の鶏肉調製品の輸出量は、16万8316トン（前年同期比7.4%減）と前年同期をかなりの程度下回った（表3）。中国農業農村部が4月に公表した中国農業展

望報告によると、同年の家きん肉の輸出量は67万トン（同6.3%増）と見込まれており、鶏肉調製品の輸出についても同様の傾向が見込まれる。また、同展望報告によると、今後10年間も飼養技術向上に伴い、家きん肉輸出産業は順調に成長することが予測されている。

表3 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：万トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
日本	19.3	16.1	18.0	19.3	9.7	▲ 17.7%
香港	2.9	3.0	3.7	3.8	2.1	▲ 1.5%
英国	0.9	0.6	0.8	1.8	1.3	35.4%
オランダ	1.3	1.0	1.4	1.8	1.2	▲ 1.7%
フィリピン	0.0	0.4	1.0	1.1	0.7	12.1%
その他	1.8	1.6	2.0	2.6	1.9	24.0%
合計	26.1	22.7	27.0	30.5	16.8	▲ 7.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード160232。

(調査情報部 海老沼 一出)

牛乳・乳製品

E U

乳製品価格の下落から、23年上半期の乳製品輸出は回復

23年6月の生乳出荷量は前年並み

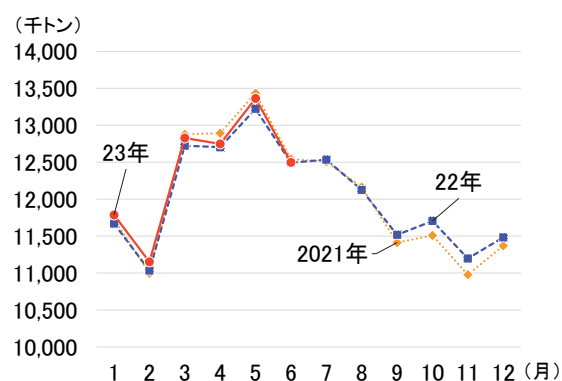
欧州委員会によると、2023年6月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1249万8220トン（前年同月比0.04%増）と前年並みになり、増産傾向で推移していた22年9月以降の増産率としては最も低いものとなった（図1）。

主要生産国別に見ると、厳しい干ばつとなったフランス（同2.9%減）やイタリア（同5.3%減）は前年同月を下回り、スペインも0.1%の増加にとどまった（表1）。一方、欧州北部を中心とした地域は比較的涼しく、降雨も十分で牧草の生育が良かったことから、ドイツ（同2.1%増）やオランダ（同1.6%増）、ポーランド（同1.9%増）などは前年同月を上回った。

この結果、23年上半期（1～6月）の生

乳出荷量（EU27カ国）は前年同期比0.7%増とわずかに増加した。しかし、現地報道によると、下落が続く生乳取引価格の動向が生産者の生産意欲を減退させることで、23年下半期の生乳生産は減少傾向で推移すると見込まれている。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2022年 6月	23年 6月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～6月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,704	2,760	2.1%	16,578	2.6%
フランス	1,997	1,939	▲ 2.9%	12,250	▲ 2.2%
オランダ	1,148	1,167	1.6%	7,137	3.1%
ポーランド	1,091	1,112	1.9%	6,636	2.1%
アイルランド	1,089	1,079	▲ 0.9%	4,734	▲ 0.9%
イタリア	1,079	1,022	▲ 5.3%	6,453	▲ 1.9%
スペイン	614	615	0.1%	3,753	▲ 0.3%
デンマーク	480	484	0.9%	2,875	1.1%
ベルギー	383	391	2.2%	2,363	3.8%
その他	1,908	1,930	1.2%	11,593	0.8%
合計	12,493	12,498	0.0%	74,374	0.7%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

生乳取引価格の下落が続く

欧州委員会によると、2023年6月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり44.30ユーロ（7147円：1ユーロ＝161.34円^注、前年同月比10.3%安）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。米国農務省によると、生産コストは減少しているものの、それ以上に生乳取引価格が下落していることから、経営が厳しくなっている生産者も増えてきているとされる。なお、同

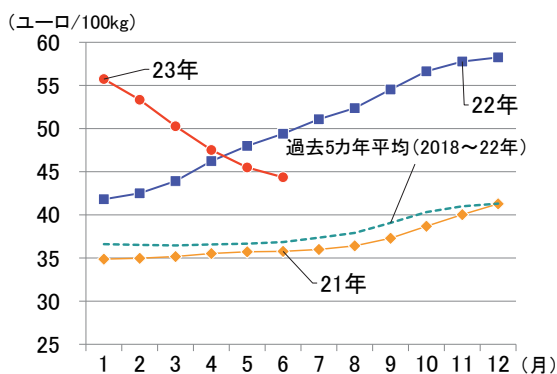
委員会が9月6日に公表した7月の同価格（推定値）は、同43.74ユーロ（7057円）と下落が続いている。

（注）三菱UFJ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末TTS相場。

23年上半期の乳製品輸出量は前年同期比増

欧州委員会によると、直近の2023年8月20日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり449ユーロ（7万2442円、前年同期比37.1%安）、脱脂粉乳が同227ユーロ（3万6624円、同38.1%安）、全粉乳が同336ユーロ（5万4210円、同31.5%安）、チーズが同358ユーロ（5万7760円、同23.7%安）、ホエイパウダーが同66ユーロ（1万648円、同38.0%安）となり、すべての品目で前年同期を大幅に下回った（図3）。現地報道によると、生乳供給が安定しているため、乳製品の製造量が増加しているという。

図2 生乳取引価格の推移



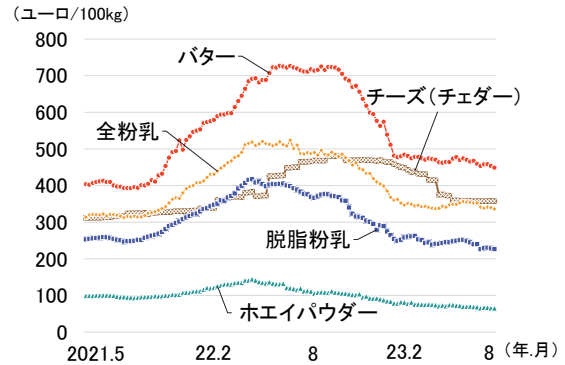
資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

また同委員会によると、23年上半期（1～6月）のEU域外向け乳製品輸出量は、脱脂粉乳が前年同期比25.0%増、チーズが同1.5%増、全粉乳が同12.0%増、バターが同8.6%増と好調に推移した（表2）。乳製品価格が下落に転じたことで、輸出需要の回復につながったとみられる。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

表2 主な乳製品の輸出量の推移

(単位：トン)

輸出先	脱脂粉乳			輸出先	チーズ		
	2022年 上半期 (1～6月)	23年 上半期 (1～6月)	前年同期比 (増減率)		22年 上半期 (1～6月)	23年 上半期 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
アルジェリア	40,945	91,074	122.4%	英国	210,068	214,887	2.3%
中国	42,621	49,506	16.2%	米国	63,395	57,262	▲ 9.7%
エジプト	24,329	28,611	17.6%	日本	55,665	51,438	▲ 7.6%
サウジアラビア	11,882	21,581	81.6%	スイス	36,224	35,699	▲ 1.4%
マレーシア	15,497	17,835	15.1%	韓国	26,925	30,976	15.0%
モロッコ	10,097	15,670	55.2%	サウジアラビア	23,855	21,386	▲ 10.4%
ベトナム	9,483	14,776	55.8%	中国	17,149	16,362	▲ 4.6%
その他	186,830	188,212	0.7%	その他	236,714	252,245	6.6%
合計	341,684	427,265	25.0%	合計	669,995	680,255	1.5%

(単位：トン)

輸出先	全粉乳			輸出先	バター		
	22年 上半期 (1～6月)	23年 上半期 (1～6月)	前年同期比 (増減率)		22年 上半期 (1～6月)	23年 上半期 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
オマーン	30,613	24,983	▲ 18.4%	米国	20,246	24,027	18.7%
アルジェリア	2,153	14,602	578.2% (6.8倍)	英国	26,986	21,475	▲ 20.4%
ナイジェリア	1,951	9,441	383.9% (4.8倍)	中国	7,424	8,260	11.3%
英国	8,360	9,224	10.3%	サウジアラビア	5,108	7,355	44.0%
中国	11,304	7,689	▲ 32.0%	韓国	5,897	6,039	2.4%
ドミニカ共和国	3,749	7,031	87.5%	イスラエル	1,759	4,052	130.4%
クウェート	6,070	5,189	▲ 14.5%	モロッコ	2,721	4,028	48.0%
その他	64,702	66,258	2.4%	その他	47,773	52,771	10.5%
合計	128,902	144,417	12.0%	合計	117,914	128,007	8.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29、バターが0405.10。

(調査情報部 上村 照子)

豪州

22/23年度の生乳生産量、前年度からさらに減少

23年6月の生乳生産量は増加も年度累計は前年度比減

デーリー・オーストラリア (DA) によると、2023年6月の生乳生産量は57万6628キロリットル (59万3926トン相当、前年同月比1.2%増) となり、1年半ぶりに前年同月を上回った前月に引き続き増加した (図1)。

しかし、22/23年度 (7月～翌6月) の累計生乳生産量では、23年4月までの減少が響き、前年度比4.9%減の813万8526キロリットル (838万2681トン相当) となり、DAが22年末に公表していた同年度の生乳生産量の見通しである、21/22年度比4～6%減 (804万～821万キロリットル、828万～846万トン相当) の範囲にとどまることとなった (図2)。減産の要因としては、農家の投入コストの増加や労働力不足に加え、年度当初の長雨や洪水の発生などが影響したことが挙げられる。また、DAが23年5月に公表した23/24年度の生乳生産量の見通しによると、生乳生産量は回復傾向にあるとしつつも、継続的な農家戸数の減少や生乳価格動向の不透明性 (注) などを要因に、前年度と同様の水準にとどまると見込んでいる。

他方で、米国農務省 (USDA) が7月21日に発表した「Dairy: World Markets and Trade」によると、23年 (1～12月) の豪州の生乳生産量を820万トン (795万キロリットル相当、前年比3%減) と見込んでいる。この理由としてUSDAは、春季の多雨による乾草の供給不足や、堅調な牛肉価格を背景とした乳用牛の淘汰による飼養頭数の

減少などにより、乳量が制限されることを挙げている。

(注)『畜産の情報』2023年8月号「23/24年度乳価、9豪ドル超えも上昇余地は限定的」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002850.html) を参照されたい。

図1 月別生乳生産量の推移

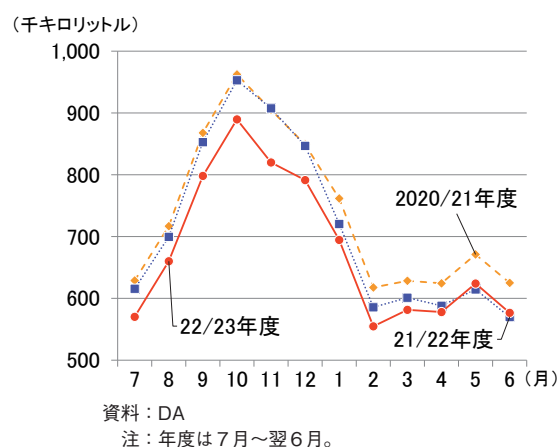
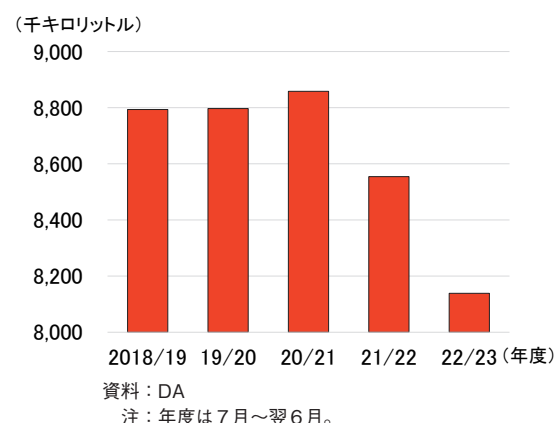


図2 年度別生乳生産量の推移



22/23年度の主要乳製品輸出量、全品目で大幅に減少

DAが発表した2023年6月の主要乳製品4品目の輸出量は、全品目で前年同月比大幅減となった (表、図3)。この結果、22/23

年度の累計輸出量は、全品目で前年度比減となった。

これらの減少要因としては、国内の生乳生産者価格の上昇などを背景に乳製品輸出価格が上昇したことなどから、中国をはじめとしたアジア向け輸出の不振にあるとみられている。

特に減少幅の大きかったバターおよびバターオイルは、主要輸出先である中国向け輸出量が前年度比減となった中で、輸出額は前年度比2割増となるなど、豪州産の価格優位性が低下し、輸出需要が落ち込んだことなどが影響したとみられている。

表 乳製品輸出量の推移

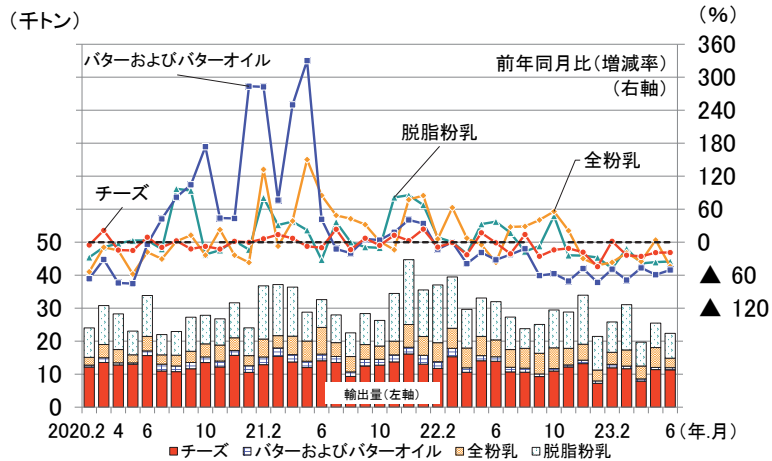
(単位：トン)

品目	2022年 6月	23年 6月	前年同月比 (増減率)	2022/23年度 (7月～翌6月)	
				2022/23年度 (7月～翌6月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	11,578	7,526	▲ 35.0 %	117,093	▲ 21.4 %
全粉乳	5,120	2,864	▲ 44.1 %	58,436	▲ 7.1 %
バターおよびバターオイル	1,364	674	▲ 50.6 %	10,435	▲ 54.0 %
チーズ	13,907	11,303	▲ 18.7 %	128,281	▲ 18.1 %

資料：DA

注：製品重量ベース。

図3 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

(調査情報部 平山 宗幸)

GDT平均取引価格が続落、20年5月以来の2900米ドル割れ

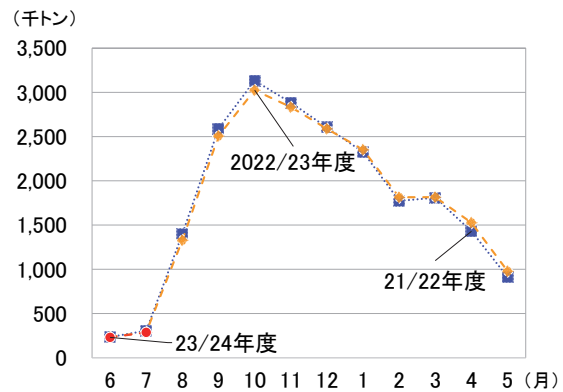
23年7月の生乳生産量、2カ月連続で減少

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2023年7月の生乳生産量は28万6000トン（前年同月比0.7%減）と2カ月連続で前年同月をわずかに下回った（図1）。ニュージーランド証券取引所（NZX）によると、主要生乳生産地帯である北島のワイカト地域では、冬期の多雨が響き、土壌水分量が依然として高いことから牧草の生育に遅れが出ており、生産者は放牧地の利用を抑制せざるを得なかったとしている。また、同国乳業最大手のフォンテラ社は8月18日、23/24年度（6月～翌5月）の生産者支払乳価を生乳の固形分^{（注1）}1キログラム当たり平均0.25NZドル（22円：1NZドル＝89.03円^{（注2）}）引き下げ、同6.75NZドル（601円）にすると発表した。この発表を受けて生産者は、補助飼料や放牧地での肥料利用の削減に動いており、NZXはこれらの動きが今後の生乳生産に影響を及ぼす可能性を示唆している。

（注1）乳脂肪分および乳タンパク質。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末TTS相場。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

23年7月の乳製品輸出量、チーズが大幅増

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2023年7月の乳製品輸出量は、他の品目が前年同月を下回る中でチーズが大幅に上回った（表、図2）。品目別に見ると、脱脂粉乳および全粉乳は、最大の輸出先である中国向けや主要輸出先のインドネシア向け

表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2022年7月	23年7月	前年同月比 （増減率）
脱脂粉乳	27,921	22,931	▲ 17.9%
全粉乳	108,229	90,044	▲ 16.8%
バターおよびバターオイル	45,264	42,076	▲ 7.0%
チーズ	27,828	33,215	▲ 19.4%
合計	209,242	188,266	▲ 10.0%

資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

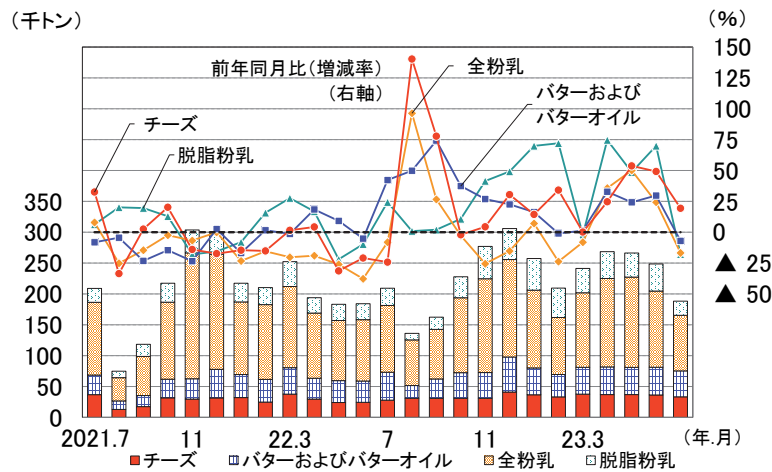
注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

がそれぞれ減少したことで、前年同月を大幅に下回った。また、バターおよびバターオイルは、最大の輸出先である中国向けが前年同月比で2割程度の減少となったことにより全

体でもかなりの程度下回った。一方、チーズは最大の輸出先である中国向けをはじめ豪州向けが同2倍程度増加したことから、全体でも前年同月を大幅に上回った。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



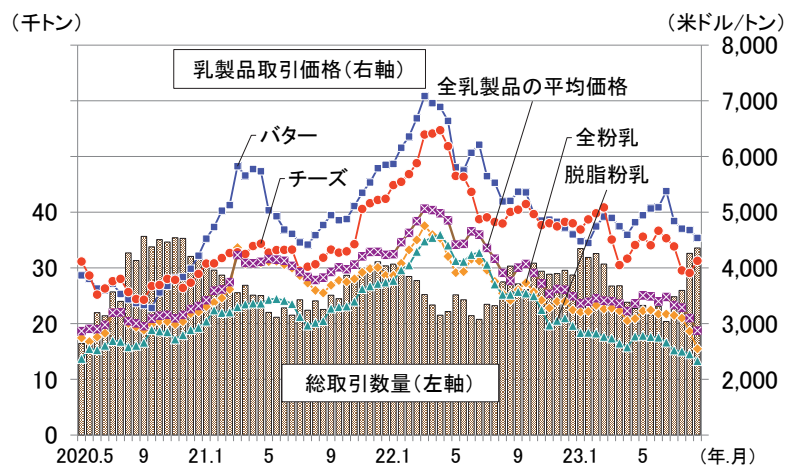
資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

23年8月下旬のGDT価格、全粉乳がかなり大きく下落

2023年8月15日開催のGDT^(注3) 1トン当たりの平均取引価格は、チーズを除く主要3品目すべてで前回開催（8月1日）時の価

格を下回った（図3）。特に全粉乳は前回比11.0%安とかなり大きく下落し、この結果、全乳製品の平均取引価格は同2875米ドル（42万3200円：1米ドル＝147.20円^(注2)、同7.3%安）と20年5月以来の2900米ドル割れとなった。オーストラリア・ニュージー

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

ランド銀行のエコノミストは、世界最大の乳製品輸入国である中国では、COVID-19の間に粉乳の在庫が増加したが、国内の経済成長が鈍化しているため、乳製品需要が停滞しているとした。また、当面は価格回復につながる要因は見当たらず、クリスマスなどの年末

需要までに価格が上昇する可能性は低いとしている。

(注3)グローバルデリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

(調査情報部 工藤 理帆)

飼料穀物

世界

世界の生産量、期末在庫は下方修正されたものの、前年度から増加

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2023年8月11日、23/24年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した(表)。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は12億1350万トン(前年度比5.4%増)と前月から1097万トン下方修正されたものの、前年度をやや上回り、過去2番目の生産量が見込まれている。地域別に見ると、ウクライナでは7月～8月初めにかけて天候に恵まれ、収量の増加見込みを受けて前月から上方修正された。一方で、米国や中国、EUなどでは下方修正された。中国北東部では、7月末から8月初めにかけて台風の影響による大雨・洪水に見舞われたことで生産量の減少が見込まれているほか、EUでは、特にハンガリー、ルーマニア、ドイツ、イタリアで熱波の発生などを受けて収量の減少が見込まれ

ている。

輸入量は、世界全体で1億8711万トン(同7.6%増)と前月から129万トン下方修正された。地域別に見ると、カナダなどで上方修正されたものの、エジプトやアルジェリアでは下方修正された。

消費量は、世界全体で12億37万トン(同3.1%増)と前月から628万トン下方修正された。地域別に見ると、主要消費国である中国が据え置かれた中で、最大の消費国である米国は前月から114万トン下方修正された。

輸出量は、生産量が前月から下方修正された米国やEUの輸出量の減少などが反映され、世界全体で1億9619万トン(同10.5%増)と前月から207万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は3億1105万トン(同4.4%増)と前月から307万トン下方修正されたものの、前年度からやや増加すると見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2023年8月11日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

区 分	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度		
			(7月予測)	(8月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	31.36	34.98	35.60	37.00	5.8%
生産量	382.89	348.75	389.15	383.83	10.1%
輸入量	0.62	0.89	0.64	0.64	▲ 28.1%
消費量	317.09	306.34	314.59	313.45	2.3%
輸出量	62.80	41.28	53.34	52.07	26.1%
期末在庫	34.98	37.00	57.45	55.94	51.2%
アルゼンチン					
期首在庫	1.18	1.50	1.51	1.51	0.7%
生産量	49.50	34.00	54.00	54.00	58.8%
輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
消費量	14.50	12.00	13.50	13.50	12.5%
輸出量	34.69	22.00	40.50	40.50	84.1%
期末在庫	1.50	1.51	1.51	1.51	0.0%
ブラジル					
期首在庫	4.15	3.97	7.97	8.97	2.3倍
生産量	116.00	135.00	129.00	129.00	▲ 4.4%
輸入量	2.60	1.00	1.20	1.20	20.0%
消費量	70.50	75.00	76.50	77.50	3.3%
輸出量	48.28	56.00	55.00	55.00	▲ 1.8%
期末在庫	3.97	8.97	6.67	6.67	▲ 25.6%
ウクライナ					
期首在庫	0.83	7.59	1.39	1.39	▲ 81.7%
生産量	42.13	27.00	25.00	27.50	1.9%
輸入量	0.02	0.00	0.00	0.00	-
消費量	8.40	5.20	5.50	5.50	5.8%
輸出量	26.98	28.00	19.50	19.50	▲ 30.4%
期末在庫	7.59	1.39	1.39	3.89	2.8倍
EU					
期首在庫	7.83	11.36	7.08	7.19	▲ 36.7%
生産量	71.52	52.23	63.40	59.70	14.3%
輸入量	19.74	24.50	24.00	24.00	▲ 2.0%
消費量	81.70	77.10	82.10	79.50	3.1%
輸出量	6.03	3.80	5.00	4.10	7.9%
期末在庫	11.36	7.19	7.38	7.29	1.4%
中国					
期首在庫	205.70	209.14	205.32	205.32	▲ 1.8%
生産量	272.55	277.20	280.00	277.00	▲ 0.1%
輸入量	21.88	18.00	23.00	23.00	27.8%
消費量	291.00	299.00	304.00	304.00	1.7%
輸出量	0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%
期末在庫	209.14	205.32	204.30	201.30	▲ 2.0%
世界計					
期首在庫	292.88	310.24	296.30	297.92	▲ 4.0%
生産量	1218.71	1151.78	1224.47	1213.50	5.4%
輸入量	184.44	173.84	188.40	187.11	7.6%
消費量	1201.36	1164.10	1206.65	1200.37	3.1%
輸出量	206.59	177.50	198.26	196.19	10.5%
期末在庫	310.24	297.92	314.12	311.05	4.4%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 針ヶ谷 敦子)

米国減産見込みで大豆期末在庫は下方修正も、前年度比大幅増は維持

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年8月11日、23/24年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

表 主要国の大豆需給見通し（2023年8月11日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度			
			(7月予測)	(8月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	6.99	7.47	6.95	7.08	▲ 5.2%
	生産量	121.53	116.38	117.03	114.45	▲ 1.7%
	輸入量	0.43	0.82	0.54	0.82	0.0%
	消費量	59.98	60.42	62.60	62.60	3.6%
	輸出量	58.57	53.89	50.35	49.67	▲ 7.8%
	期末在庫	7.47	7.08	8.16	6.67	▲ 5.8%
ブラジル	期首在庫	29.58	27.60	33.05	32.95	19.4%
	生産量	130.50	156.00	163.00	163.00	4.5%
	輸入量	0.54	0.15	0.45	0.45	200.0%
	消費量	50.71	53.00	55.75	55.75	5.2%
	輸出量	79.06	94.00	96.50	96.50	2.7%
	期末在庫	27.60	32.95	40.30	40.20	22.0%
アルゼンチン	期首在庫	25.06	23.90	17.55	17.70	▲ 25.9%
	生産量	43.90	25.00	48.00	48.00	92.0%
	輸入量	3.84	9.20	5.70	5.70	▲ 38.0%
	消費量	38.83	30.25	36.25	36.25	19.8%
	輸出量	2.86	3.90	4.60	4.60	17.9%
	期末在庫	23.90	17.70	23.70	23.85	34.7%
中国	期首在庫	30.86	30.32	36.77	36.77	21.3%
	生産量	16.40	20.28	20.50	20.50	1.1%
	輸入量	91.56	100.00	99.00	99.00	▲ 1.0%
	消費量	87.90	92.00	95.00	95.00	3.3%
	輸出量	0.10	0.13	0.10	0.10	▲ 23.1%
	期末在庫	30.32	36.77	38.17	38.17	3.8%
世界計	期首在庫	100.24	99.14	102.90	103.09	4.0%
	生産量	360.15	369.74	405.31	402.79	8.9%
	輸入量	156.59	166.43	166.57	166.25	▲ 0.1%
	消費量	314.45	311.55	330.25	329.53	5.8%
	輸出量	153.88	168.95	169.29	168.77	▲ 0.1%
	期末在庫	99.14	103.09	120.98	119.40	15.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

これによると、世界の生産量は4億279万トン（前年度比8.9%増）と前月から252万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは前月から据え置かれたが、これに続く米国は単収の引き下げ（1エーカー当たり52.0ブッシェルから同50.9ブッシェル）により258万トン下方修正されたことが影響した。

輸入量は、世界全体で1億6625万トン（同0.1%減）と前月から32万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は9900万トン（同1.0%減）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億2953万トン（同5.8%増）と前月から72万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は9500万トン（同3.3%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億6877万トン（同0.1%減）と前月から52万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは前月から据え置かれたが、これに続く米国は各国での需要緩和などを背景に68万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は1億1940万トン（同15.8%増）と前月から158万トン下方修正された。

中国農業農村部が同日に公表した23/24年度の同国内の大豆需給見通しによると、生産量はUSDA予測値を上回る2146万トン、輸入量はこれを下回る9422万トンといずれも前月から据え置かれている。このため、大豆の国際相場に影響する今後の同国の需給動向にも関心が高まっている。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

単収が下方修正されたものの、生産量は過去2番目の高水準

USDA/WAOBは同日、2023/24年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、単収の減少見込みを受けて151億1100万ブッシェル（3億8383万トン^{（注1）}、前年度比10.1%増）と前月から2億900万ブッシェル（531万トン）下方修正されたものの、16/17年度に次ぐ過去2番目の生産量が見込まれている。

消費量は、123億4000万ブッシェル（3億1345万トン、同2.3%増）と前月から4500万ブッシェル（114万トン）下方修正された。用途別に見ると、でん粉やグルコース、デキストロースなどその他工業向けや飼料など向

けでの利用の減少が見込まれている。

輸出量は、20億5000万ブッシェル（5207万トン、同26.2%増）と前月から5000万ブッシェル（127万トン）下方修正されたものの、前年度から大幅に増加すると見込まれている。

期末在庫は、22億200万ブッシェル（5593万トン、同51.1%増）と前月から6000万ブッシェル（152万トン）下方修正されたものの、前年度から大幅に増加し、高水準が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、15.3%（同4.7ポイント増）と引き続き前年度を上回る水準が予測されている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.90米ドル（721円：1米ドル＝147.20円^{（注2）}。1キログラム当たり28.4円、同25.8%安）と前年度からは大幅に下落する

と見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年8月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2023年8月11日米国農務省公表）

区分	一単位一	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度			前年度比 (増減率)
				(7月予測)	(8月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	93.3	88.6	94.1	94.1	38.08 (百万ヘクタール)	6.2%
収穫面積	(百万エーカー)	85.3	79.2	86.3	86.3	34.93 (百万ヘクタール)	9.0%
単収	(ブッシェル/エーカー)	176.7	173.3	177.5	175.1	10.99 (トン/ヘクタール)	1.0%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,377	1,402	1,457	37.01 (百万トン)	5.8%
生産量	(百万ブッシェル)	15,074	13,730	15,320	15,111	383.83 (百万トン)	10.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	35	25	25	0.64 (百万トン)	▲28.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,333	15,142	16,747	16,592	421.45 (百万トン)	9.6%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,483	12,060	12,385	12,340	313.45 (百万トン)	2.3%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,719	5,425	5,650	5,625	142.88 (百万トン)	3.7%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,764	6,635	6,735	6,715	170.57 (百万トン)	1.2%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,326	5,225	5,300	5,300	134.63 (百万トン)	1.4%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,472	1,625	2,100	2,050	52.07 (百万トン)	26.2%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,956	13,685	14,485	14,390	365.52 (百万トン)	5.2%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,457	2,262	2,202	55.93 (百万トン)	51.1%
期末在庫率	(%)	9.2	10.6	15.6	15.3		4.7ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.00	6.60	4.80	4.90	28.4 (円/kg)	▲25.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

（調査情報部 針ヶ谷 敦子）

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

国産トウモロコシ価格、需給の緩和から上昇の継続は困難と予想

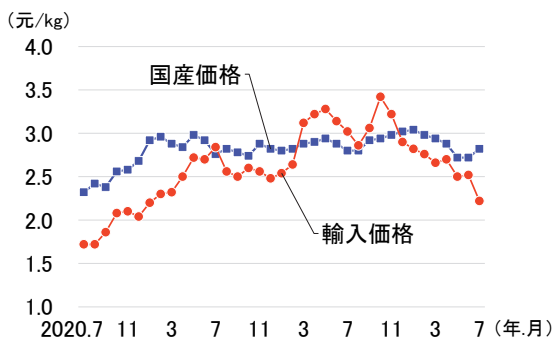
中国農業農村部は8月22日、「農産物需給動向分析月報（2023年7月）」を公表した。この中で、2023年7月の国産トウモロコシ価格は、前月比3.7%高と上昇に転じている（図1）。同月の国内のトウモロコシ需給を見ると、供給面では流通業者の手持ち在庫が限

られる中で、需要面では大口需要者である一部飼料企業は在庫の減少から、また、加工企業はでん粉価格の上昇からそれぞれ在庫の補充に動いたとされている。しかし、早期収穫のトウモロコシが一部市場に出回り、また、輸入トウモロコシ、大麦、ソルガムも大量に到着する中で、飼料需要者である養豚企業の経営は赤字が続き、加工企業も設備更新から一部工場が閉鎖している。このため、短期的

には国産トウモロコシの価格が上昇を続ける可能性は低いと見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：1%の関税＋25%の追加関税）は、23年7月が1キログラム当たり2.22元（45円：1元＝20.33円^{（注）}）となった。また、国産と輸入との価格差は、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.82元（57円）となったことで同0.60元（12円）に広がった。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

国産大豆価格、需要の減少から弱含みでの推移と予想

2023年7月の国産大豆価格は、前月並みとなった（図2）。同月の国内の大豆需給を見ると、供給面では産地や流通在庫が限られる一方、需要面では高温多湿の気候による大豆加工製品の賞味期限短縮などから全体的に減少傾向とされている。この先も高温多湿が予想され、さらに8月末まで大学以下の学校が夏休み（学生食堂や給食の休み）となることで、国産大豆価格は弱含みでの推移が見込

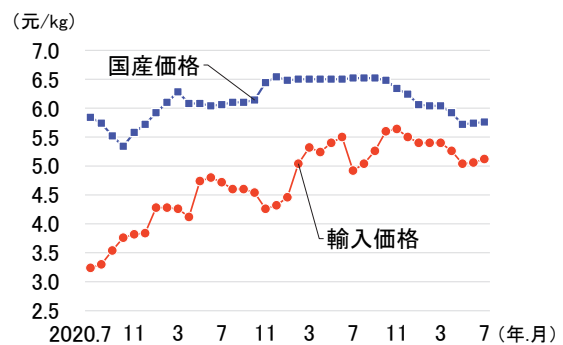
まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、23年7月が1キログラム当たり5.14元（104円、前年同月比16.7%安）と前年同月を大幅に下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.76元（117円、同11.7%安）と同じく下回った。この結果、国産と輸入との価格差は、世界的な穀物相場高の影響による輸入価格の上昇もあり、同0.64元（13円）と前月からわずかに縮小した。

国際相場に影響する大豆の輸入量については、前年に比べて高い水準で推移している。23年（1～6月）の輸入量は5258万トン（前年同期比13.6%増）、輸入額は同13.6%増の335億2200万米ドル（4兆9344億円：1米ドル＝147.20円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の56.5%）、米国（同37.5%）、アルゼンチン（同2.7%）であり、5月以降はブラジルからの輸入を高めている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月・月中平均の為替相場」の2023年8月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

（調査情報部 横田 徹）